

平成22年10月28日公表

平成22年産水稲の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在） （大分県）

10a 当たり予想収量は495kg(作況指数98)の見込み
作付面積(子実用)は前年産に比べ2%減少

【調査結果の概要】

1 大分県における平成22年産水稲の作付面積(子実用)は2万4,400haで前年産に比べて400ha(前年産対比98%)減少しました。

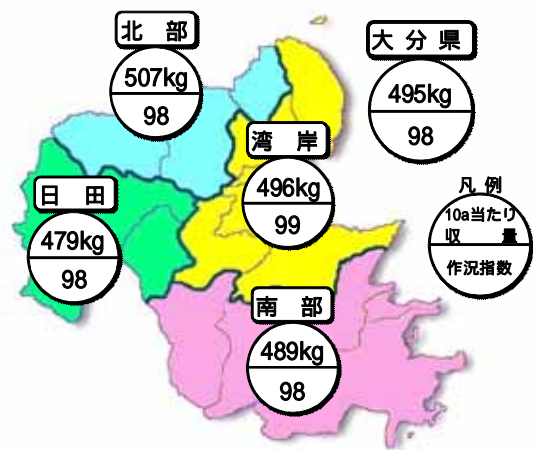
なお、主食用作付見込面積は、2万4,300haが見込まれます。

2 10月15日現在における水稲の作柄は、登熟(実入り)は順調に推移したものの、もみ数が少なかったことと、白未熟粒等の発生により、10a 当たり予想収量は495kg(作況指数98)が見込まれます。

作柄表示地帯別には、北部では507kg(同98)、湾岸では496kg(同99)、南部では489kg(同98)、日田では479kg(同98)となっています。

3 この結果、予想収穫量(子実用)は12万800tが見込まれます。

水稲の作柄表示地帯別
10a 当たり予想収量及び作況指数
(10月15日現在)



区分	作柄表示地帯に包括される市町村
北部	中津市 豊後高田市 宇佐市
湾岸	大分市 別府市 杵築市 由布市 国東市 姫島村 日出町
南部	佐伯市 臼杵市 津久見市 竹田市 豊後大野市
日田	日田市 九重町 玖珠町

作付面積(子実用)とは、青刈り用の面積を除いた面積です。
主食用作付見込面積とは、作付面積(青刈り面積を含む)から、需給調整の取組として取り扱う米穀等(加工用米、新規需要米等)の面積を除いた面積(見込み)です。
作況指数とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり予想収量の比率です。
調査は、収穫を終えた地域では刈取り実測により行いましたが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数、登熟状況等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行いました。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。

この資料は九州農政局ホームページ大分農政事務所の「大分の統計情報」

【http://www.maff.go.jp/kyusyu/oita/toukei_jouhou/toukei_sokuho.html】でご覧になれます。
この統計調査における調査目的、調査対象などの調査仕様は、【調査の仕様】8Pに掲載しています。
本調査についての確定値は、「平成22年産水陸稲の収穫量」として12月上旬に公表する予定です。

【調査結果】

収穫期は、9月下旬から10月上旬にかけての周期的な降雨により収穫作業が一時停滞したため、最盛期は平年並みの10月14日となりました。

生育は、6月中旬から7月中旬の日照不足の影響により、穂数が少なくなったため、もみ数は少なくなりました。7月下旬からの高温・多照により登熟(実入り)が順調に推移したため、平年に比べて稔実(もみ数のうち玄米になった割合)や粒の肥大が良くなり、くず米の発生も少なくなっています。しかし、出穂後も高温が長期間続いたことから、整粒不足や形質低下(充実不足、白未熟粒等)の発生が見られ、10a当たり予想収量は495kg(作況指数98)が見込まれます。

作柄表示地帯別には、北部ではもみ数が少ないものの登熟がやや良いと見込まれるため507kg(作況指数98)、湾岸ではもみ数が少ないものの登熟が良いと見込まれるため496kg(同99)、南部ではもみ数が少ないものの登熟がやや良いと見込まれるため489kg(同98)、日田ではもみ数がかなり少ないものの登熟が良いと見込まれるため479kg(同98)となっています。

病虫害は、トビイロウンカの被害が見られましたが、防除の徹底等により被害の広範な拡大は抑えられました。また、いもち病や紋枯病、内穎褐変病などの発生も見られますが、いずれも平年に比べると被害は少なくなっています。

1 平成22年産水稻の作柄表示地帯別作付面積及び予想収穫量(10月15日現在)

区 分	作付面積 (子実用)			10a当たり 予想収量	予想収穫量 (子実用)			参 考				
	前年産との比較				=	×	前年産との比較		主食用 作付見込面積	予想収穫量 (主食用)	10a当たり 平年収量	作 況 指 数
	対差	対比	対差				対比	=				
ha	ha	%	kg	t	t	%	ha	t	kg			
大分県	24 400	400	98	495	120 800	3700	97	24 300	120 300	503	98	
北部	7 400	120	98	507	37 500	1300	97	7 390	37 500	517	98	
湾岸	7 120	80	99	496	35 300	600	98	7 100	35 200	500	99	
南部	6 930	120	98	489	33 900	1000	97	6 920	33 800	498	98	
日田	2 960	60	98	479	14 200	700	95	2 950	14 100	490	98	

- 注：1 作付面積(子実用)とは、青刈り用の面積を除いた面積です。
 2 主食用作付見込面積とは、作付面積(青刈り面積を含む)から、需給調整の取組として取り扱う米穀等(加工用米、新規需要米等)の面積を除いた面積(見込み)です。
 3 10a当たり平年収量とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいいます。

2 平成22年産水稻の作柄表示地帯別刈取期及び刈取済面積割合(10月15日現在)

作柄表示地帯	刈 取 期					刈取済面積割合	
	始 期	最盛期	終 期	最盛期の比較		%	対平年差
				対平年	対前年		
月 日	月 日	月 日				ポイント	
大分県	9. 18	10. 14	...	並 み	2日早い	55	3
北部	9. 18	45	0
湾岸	9. 16	10. 15	...	1日遅い	1日早い	51	7
南部	9. 20	10. 14	...	1日遅い	3日早い	60	0
日田	9. 15	10. 3	...	2日遅い	1日早い	75	8

刈取期の「始期」は刈取済みの面積割合が5%、「最盛期」は同50%、「終期」は同95%に達した期日です。「...」は10月15日現在において、その期日に達していないことを示します。

【関連するデータ】

参考 1

平成22年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況及び10a当たり収量内訳
(10月15日現在概数値)

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物検査規格の三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としています（参考4参照）。
農家等が販売するために使用している選別ふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、ふるい目幅の重量割合とふるい目幅別10a当たり収量を示すと次のとおりです。

単位 { 重量割合：%
平均対差：ポイント

区分	合計	ふるい目幅					
		2.00mm	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm
作柄表示地帯							
大分県							
重量割合	100.0	71.7	19.4	3.9	2.6	1.5	0.9
本年値							
平均対差		17.8	9.8	3.7	1.9	1.8	0.6
北部							
重量割合	100.0	73.5	18.1	3.2	3.1	1.3	0.8
本年値							
平均対差		17.4	9.9	3.5	1.9	1.4	0.7
湾岸							
重量割合	100.0	68.4	20.9	5.0	2.9	1.8	1.0
本年値							
平均対差		25.5	13.6	5.2	2.9	2.9	0.9
南部							
重量割合	100.0	73.2	18.6	3.6	2.2	1.6	0.8
本年値							
平均対差		17.7	10.5	3.4	1.7	1.5	0.6
日田							
重量割合	100.0	71.5	20.4	4.1	2.0	1.3	0.7
本年値							
平均対差		5.5	2.0	1.5	0.7	1.1	0.2

単位：kg

区分	10a当たり 収量 (1.7mm基準)	選別ふるい目幅別10a当たり収量					
		2.00mm	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm
作柄表示地帯							
大分県	495	355	451	470	483	491	495
北部	507	373	464	481	496	503	507
湾岸	496	339	443	468	482	491	496
南部	489	358	449	467	477	485	489
日田	479	342	440	460	469	476	479

- 注：1 平均対差に用いた平均値は、直近5ヶ年の重量割合の平均値です。
2 選別ふるい目幅別10a当たり収量とは、表頭のふるい目幅を使用した際に得られる10a当たり収量のことです。
3 未熟粒・被害粒の混入が多く農産物規格規程三等の品位に達しない場合は再選別を行っており、その選別後の値を含んでいます。

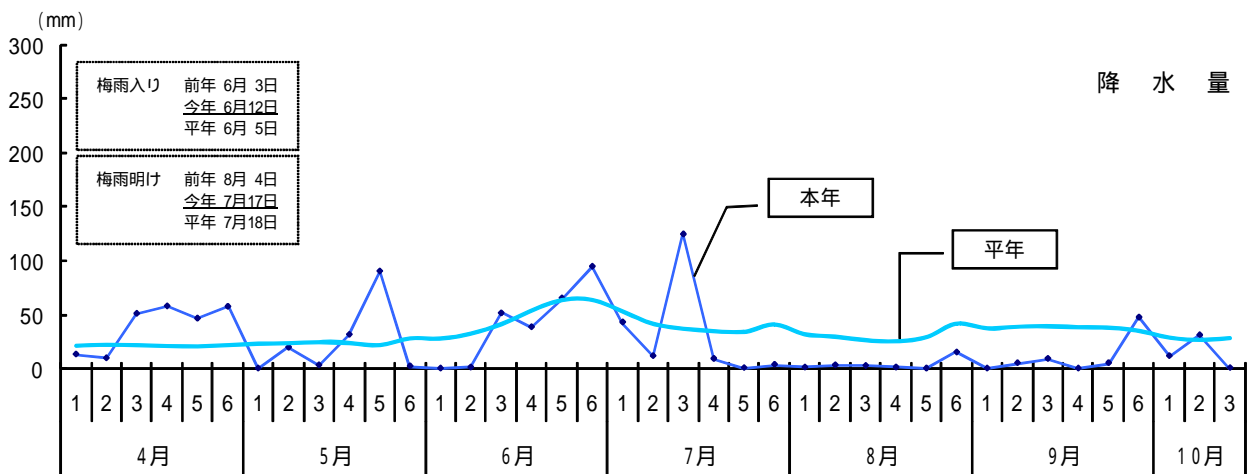
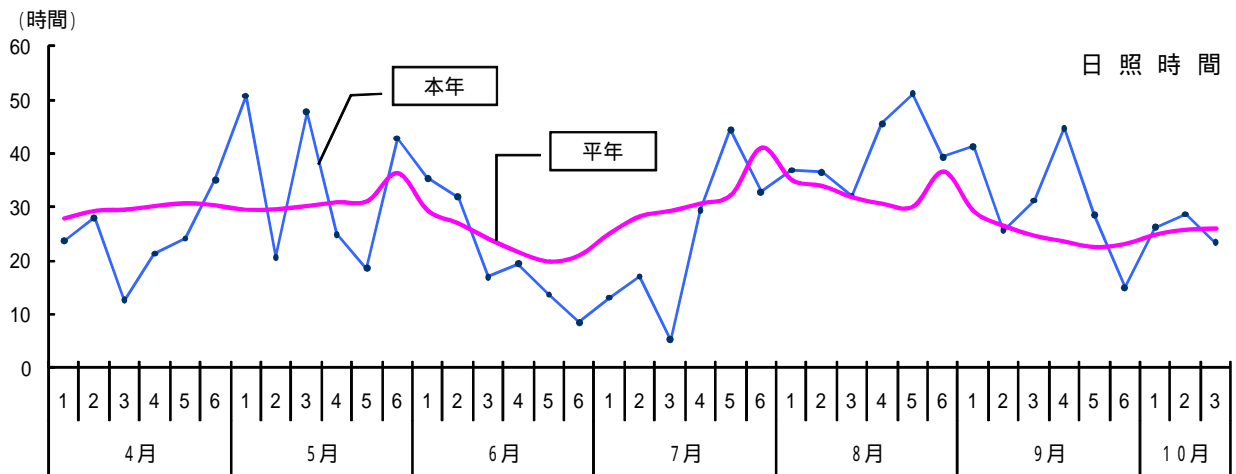
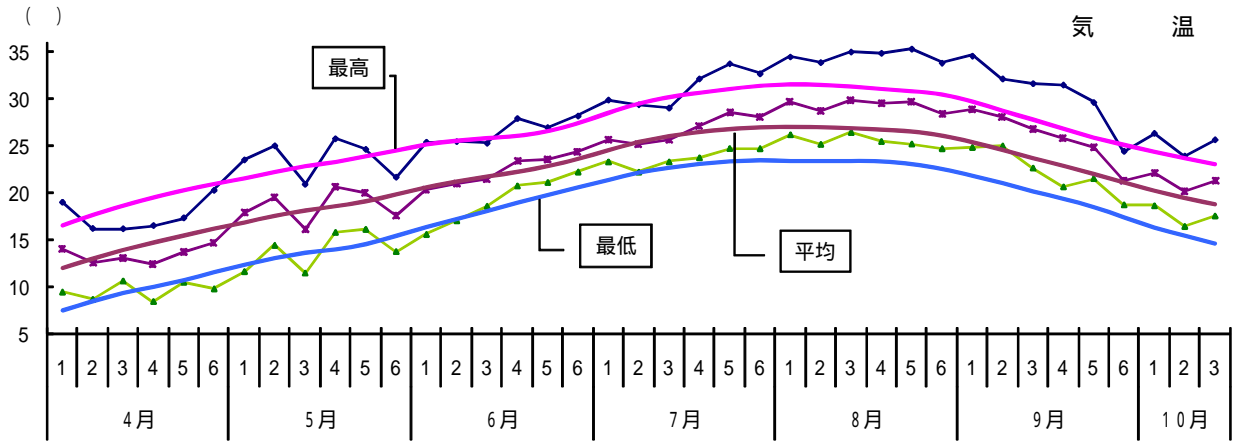
参考 2

水稻の年次別推移（大分県）

年産	作付面積 (子実用) ha	10a当たり 収 量 kg	収穫量 t	作況指数	10a当たり 平年収量 kg	主な要因
昭.54	40 000	481	192 400	108	446	
55	38 700	357	138 200	79	452	異常低温、長雨
56	37 100	480	178 100	106	452	
57	37 000	421	155 800	92	458	日照不足
58	37 000	455	168 400	99	458	高温障害
59	37 300	490	182 800	107	458	
60	37 600	484	182 000	105	462	
61	37 000	482	178 300	103	466	
62	34 200	416	142 300	89	470	風水害、日照不足
63	33 400	468	156 300	100	470	風水害、日照不足
平.元	33 200	487	161 700	104	470	
2	32 700	461	150 700	98	472	水害、台風、高夜温
3	32 000	392	125 400	83	474	台風、天候不順
4	33 000	493	162 700	104	474	
5	33 800	367	124 000	77	474	冷夏長雨、台風
6	34 700	590	204 700	124	474	高温多照、少雨、干害
7	33 300	519	172 800	109	474	高温多照、少雨
8	30 800	492	151 500	104	474	
9	30 500	479	146 100	100	478	
10	28 200	499	140 700	104	478	
11	27 800	387	107 600	80	485	台風、日照不足
12	27 500	516	141 900	105	490	
13	26 800	512	137 200	104	490	
14	26 400	513	135 400	103	496	
15	26 100	485	126 600	97	498	長雨、日照不足
16	26 200	432	113 200	86	501	台風16,18,21,23号、日照不足、秋雨前線停滞
17	26 200	459	120 300	91	503	台風14号、高温障害(乳白)、ウンカ
18	26 200	395	103 500	79	503	日照不足、台風13号、潮風害、内穎褐変病
19	25 900	493	127 700	98	503	ウンカ、紋枯病
20	24 800	519	128 700	103	503	高温多照、少雨
21	24 800	502	124 500	100	503	

参考3

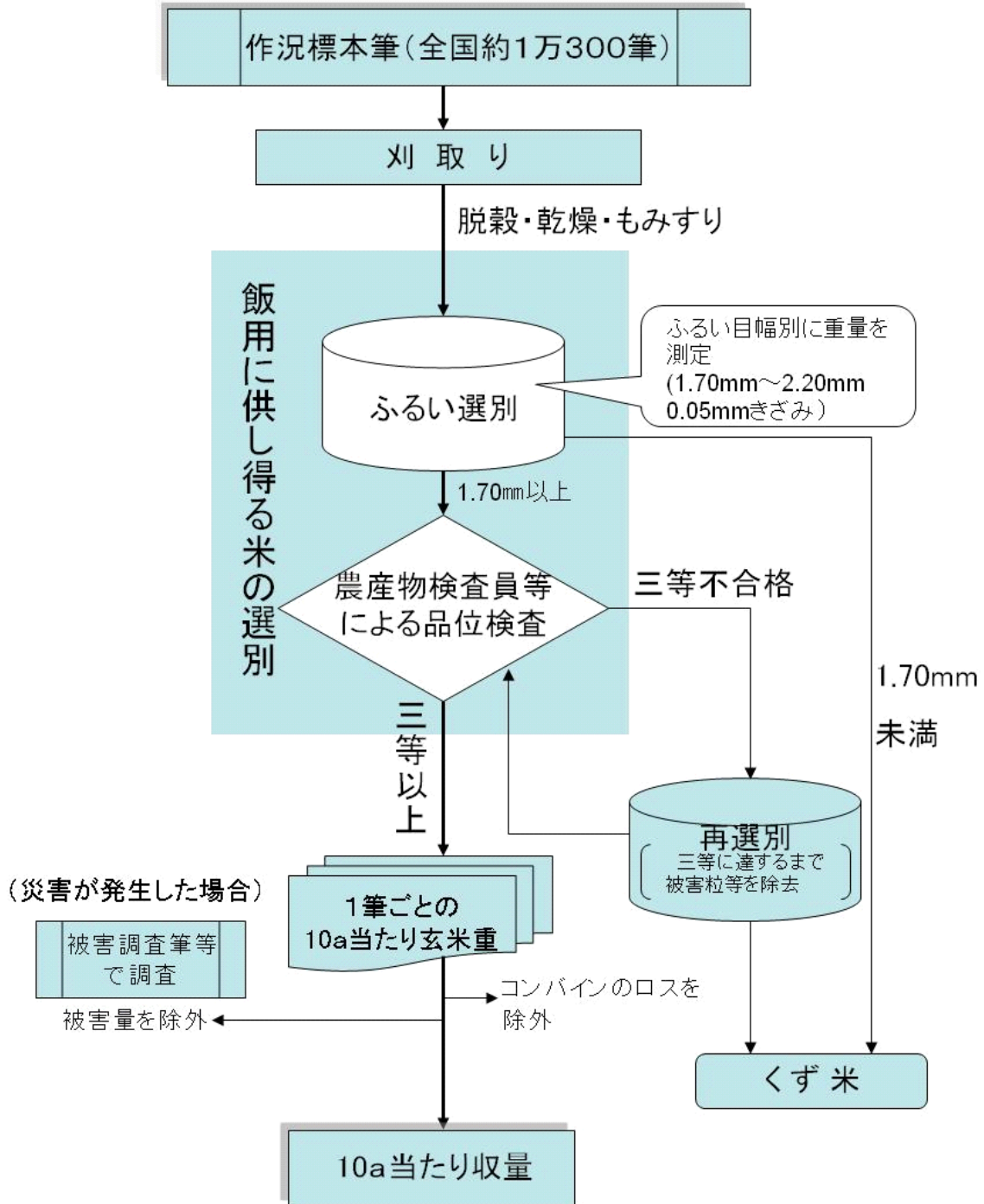
平成22年気象グラフ平年比較（大分市）



資料：大分地方気象台「アメダスデータ」

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る米の全量を把握することを目的として、作況標本筆(参考5参照)ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程三等の品位(整粒歩合45%)以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測しています(下図参照)。



作況標本筆^{ふで}とは

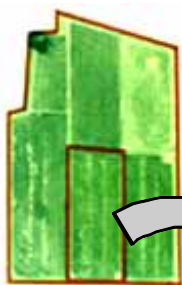
収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆(1枚のほ場を^{ふで}筆と呼びます。)は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて以下のように各地で選定し(全国で約1万300筆)、調査しています。

都道府県内の全耕地
(母集団)



都道府県ごとの耕地を、約2haの区画に区切った単位区の集まり(調査母集団)として整理し、その中の水田を含むものから、無作為抽出法(人間の恣意を排したくじ引きの様な選び方)により「標本単位区」を選んでいます。

標本単位区
(約2ha)



標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としています。

作況標本筆
(全国で約1万300筆)



各作況標本筆の対角線上の3か所を実測調査箇所として、サンプル採取(坪刈り)を行いました。

【調査の仕様】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び水稲調査の中の予想収穫量調査として実施し、水稲の作付面積、生育・作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農林水産行政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査の対象

大分県

3 調査期間

- (1) 作付面積調査：7月15日現在で水稲の作付面積を調査しました。
- (2) 予想収穫量調査：10月15日現在で水稲の予想収穫量を調査しました。

4 調査方法

(1) 作付面積調査

調査は、標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査並びに職員による巡回・見積りにより行いました。

(2) 予想収穫量調査

調査は、作況標本筆、作況基準筆及び被害調査筆に対する職員による実測調査及び作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより行いました。

5 調査対象数

(1) 作付面積調査

標本単位区：865単位区 巡回・見積り：18市町村

(2) 予想収穫量調査

作況標本筆：185筆 作況基準筆：12筆 巡回・見積り：18市町村

6 調査事項

水稲の作付面積、は種期の遅速、田植期の遅速、活着の良否、草丈の長短、茎数の多少、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況、耕種状況。

7 集計方法

(1) 作付面積調査

対地標本実測調査結果及び巡回・見積り結果により取りまとめています。

(2) 予想収穫量調査

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより補完して取りまとめています。

8 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WC S用稲、わら専用稲等を含む）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指します。
- (2) 「作況指数」とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率です。
- (3) 「10a当たり平年収量」とは、水稲の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいいます。

【統計表の見方】

1 統計数値については、下記の方法によって四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しないことがあります。

原 数	7けた以上 (100万)	6けた (10万)	5けた (万)	4けた (1 000)	3けた以下 (100)	
四捨五入するけた数 (下から)	3けた	2けた		1けた	四捨五入しない	
例	四捨五入する前	1 234 567	123 456	12 345	1 234	123
	四捨五入した数値	1 235 000	123 500	12 300	1 230	123

2 表中の「 」は、減少したものを示します。

【利用上の注意】

本調査(10月15日現在)は、収穫を終えた地域では刈取り実測により行いましたが、一部の収穫を終えていない地域ではもみ数、登熟状況等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行いました。

したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。

【関連リンク】

九州各県

九州農政局ホームページ>統計情報

<http://www.maff.go.jp/kyusyu/toukei/index.html>

全国

農林水産省ホームページ>統計情報

<http://www.maff.go.jp/j/tokei/>



問い合わせ先

本統計調査結果について

連絡先

九州農政局大分農政事務所 統計部

生産流通消費統計課 生産流通消費統計係

TEL 097-532-6177 FAX 097-538-1820

農林水産統計全般について

連絡先

九州農政局大分農政事務所 統計部

統計企画課 企画・分析係

TEL 097-532-6177 FAX 097-538-1820